

平成 24 年度 第 6 回病院局経営戦略会議概要

日 時：平成 24 年 10 月 19 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

場 所：県庁 10 階 病院事業管理者室

出席者：病院局 病院事業管理者，病院局長，総務課長，
経営企画課長 ほか

病院 各県立病院長，中央病院副院長，
各県立病院看護局長，各県立病院事務局長 ほか

(1) 平成 24 年度決算見込み（8 月末）について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

平成 24 年度決算見込み（8 月末現在）について示す。

(2) 医療の確保と健全化をすすめる会の事前プレゼン

【説明】病院局総務課

医療の確保と健全化をすすめる会の開催日程等について説明する。

また，中央病院と徳島大学病院の 2 つの隣接する病院が更なる連携強化や効果的な機能分担を進め，県全体の医療の質の向上等を図る「総合メディカルゾーン構想」について，進捗状況等を説明する。

【質疑等】

三好病院：中央病院と大学病院の医師の相互派遣について，地域医療再生計画と特区でオーバーラップさせるなど，どんな派遣を考えているのか。

病院局：大学病院からは，医局人事，パート医等で来てもらっているが，組織的に蔵本地区で派遣し合うことを促進するために，寄附講座の後，財政支援を考えている。

三好病院：地域医療支援センターと特区は切り離して考えるのか。

病院局：今の制度でできることをやっていく。現在，キャリア形成のプログラムを作っている。へき地への配置調整等は順次行われると思う。

三好病院：特区の人事交流については。

病院局：総合的な力をつけることが大事なので，まず集まってもらう。

三好病院：南部や西部にも及ぶようにしてもらいたい。

病院局：またいろいろと提案してほしい。

管理者：地域医療支援センターは，基本的に総合医の養成の場になるべきだと思う。大学は総合医を養成する機関ではないので，逆に，救急医，総合医の養成に手を貸す形になるように提案していく。継続したものにするために，どう活用するかが課題である。

三好病院：是非進めてほしい。

【説明】中央病院

新病院において進めていく「更なる経営改善」、「人材の育成・確保」及び「政策医療の充実」について説明する。

【質疑等】

管理者：診療材料、薬品費の見直しについては、品目数の見直しを行うように。また、医薬品のジェネリック化についても触れてもらいたい。

三好病院：後期研修プログラムは三好病院にとってもありがたい。募集は来年度からか。

中央病院：既にホームページで募集していると思う。2年では難しいので、3年計画くらいでやっていきたい。

病院局：中央病院として、どうしていくか検討する必要がある。

中央病院：海部病院と日野谷診療所は初期研修で行っているの、その後も行きやすい。三好病院も自治医科大学以外の初期研修の受入れがあれば、三好病院と海部病院でできることになるので良いと思うが、初期研修で回ってもらって、また、後期研修で行ってもらえることが良いのか検討中ではある。

三好病院：徳島大学のプログラムで3名程度を1～3か月受入れているので、今後も対応できると思う。

【説明】三好病院

四国中央部の医療の拠点病院を目指す三好病院における急性期医療、がん医療、救急医療及び災害医療の今後の取組等について説明する。

【質疑等】

病院局：7：1看護の導入が課題だと思うが、そのためには、平均在院日数を絞らなければならないし、新規入院患者も増やさないといけない。新規入院患者を1日当たり1～2人増やすことは可能か。

三好病院：西部Ⅱ医療圏は人口が約4万5千人で毎年約800人減っている。ポイントを絞って、循環器内科や脳外科を充実化すれば、なんとか見込めるかもしれない。全体ではなく、特化した充実をしないと、新規患者は増えないし、平均在院日数も減らない。

病院局：平均在院日数を15日くらいにして、循環器内科と脳外科を強化できればということか。脳卒中センターについては、徳島大学病院にどういう説明をしていくのだが、どうしていくつもりか。

三好病院：徳島大学病院と連携して、受け皿になればと思っている。地域医療支援病院の承認に向けて、逆紹介率を上げていっている中で、三好病院が地域の家庭医であるという考えを変えていかないといけない。三好病院は急性期病院であるという地域の方への意識付けをしていかなければならない。県の取

組にも期待したい。

管理者：新しい診療科を作る以外に収益を増やす方法は、在院日数を減らすか、新規患者を増やすしかない。ただ、病院によって1人当たりの単価が違うので、三好病院は2億円増えれば良い方である。単価が高い病院は3億円増えたりもするが。今の平均在院日数が18日ならば、14日を目標にしていかないと次のステップには進めない。

三好病院：整形外科では新規患者数が増えているので、ほかの科についても指示どおりやっていきたい。

中央病院：脳外科を充実させるだけでなく、若い先生が来てくれないと。医療機器、症例数が多いかなど理由がある。そういった体制づくりはもちろん、遠隔診断もできるように。脳卒中センターについては、センターを作っても、脳外科の医師だけでは将来的に無理になる。脳外科医が潤沢で継続されるなら良いが、全診療科でやっていくことが必要だと思う。

三好病院：すべての医師に呼びかけたいと思う。

管理者：例えば脳外科の専門医が1～2人でも、総合診療医がいて、症例が多くなければ、専門的な治療もできる。院内診療総合医を育てることが今後数年間における直近の課題である。

【説明】海部病院

海部病院が目指す目標である「総合医の育成を通じ、病院機能を充実させる」ための基本方針である「医療機能の充実」、「災害拠点病院としての対応」、「研修体制の整備」について説明する。

(3) 平成24年度医薬品納入業者の選定について

【説明】病院局経営企画課 経営戦略担当

医薬品共同購入における契約方法、納入業者等の選定について付議し、原案のとおり承認される。

(4) その他

- ・徳島県病院局情報システム調達審査要領の制定について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

情報システムの調達に係る審査に関して、必要な事項を定めた徳島県病院局情報システム調達審査要綱について説明する。

- ・県立3病院におけるクレジットカード納付等について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

平成24年11月から県立3病院において開始されるクレジットカード決済について説明する。

【質疑等】

中央病院：10月27日（土）にシャネルカンファレンス（院内学会）が開催されるが、その中で、済生会熊本病院の先生が講演をしてくれる。参加できる方は是非参加してほしい。

管理者：日本病院会が2年に1回未収金の調査を行っているが、今回の調査では、1施設当たり1,176万円の未収金があるとのことであった。ただ、未収金のない施設が500病院近くあり、そのうち、1年間未収金のない病院が15あり、3年間未収金のない病院が3つあるとのこと。減らす努力をしないといけない。